



「奥深い森が育む おいしさ、ラオスの宝」

東南アジアで唯一の内陸国ラオス。
豊かな森の恵みの中で育つ
無農薬無化学肥料コーヒーです。

「ウガンダコーヒーの経験から出合いました。

ラオス産 カティモール 無農薬無化学肥料コーヒー」

アフリカ中央部の国ウガンダで「自然栽培」のみで指定したコーヒーを契約栽培し、適正価格で購入することで直接地元農家さんを支援しているクリスタルが、20年の節目に新たなコーヒー豆と出会いました。それが、東南アジアの内陸部にあるラオス人民民主共和国で育てられたコーヒー豆なのです。農家さんはラオス北部の森林豊かな「ロンラン村」に限定され、日本国内初入荷となります。



「伝統的な焼畑農業の限界」

日本の本州に匹敵する面積の大部分を森林が占めるラオスでは、その中に約50の民族が暮らしています。「貧しくも飢えのない国」とよばれ、最近まで続いた内戦期であっても、豊かな自然と共生し、独自の暮らしを維持してきました。伝統的に焼畑農法を営む山岳少数民族は、朝早くロバと共に山に行きます。



畑で陸稲や野菜を育て、休閑地できのこや薬草を採取し、森の中で狩りをするといった、暮らしの全てが山と共にありました。ところが、かつて国土の約70%を占めていた森林が、今は40%以下にまで減少しています。人口増加と急激な経済発展の中で土地利用の役割が高まり、伝統的な焼き畑も「持続可能」な農業ではなくなっています。継続して使用できる畑や代替作物を作ることが急がれています。



「林業×農業」が描く、ラオスの未来」

森林伐採でゴムの木栽培や、農薬・化学肥料を使用する農業を始める人もいますが、土地への負担が大きく、継続していくのは困難です。そこで私達クリスタルは「森をつくる農業」と言われる、森林生態系の豊かさを持続しながらコーヒー豆を栽培する方法に賛同します。

そこは奥深い山中のため、平地のように広大な面積が確保できず収穫量はまだまだ多くはありません。

しかし、私達クリスタルはウガンダで自然栽培コーヒー21年の経験から理解しています。こうした持続可能な栽培を地道におこない、生産者から適正価格でコーヒー豆を購入し続けることが、彼らの生活を守り、環境維持につながることを。

